

## 独立行政法人水資源機構関東管内渇水対策本部を設置

利根川水系渡良瀬川では、流域で降水量が少ない状態が続いており、河川の流量が減少しています。このため草木ダムでは、必要な水の補給を続けており、貯水量が減少傾向にあります。

(参考) 草木ダムの貯水量及び貯水率

6月29日9時時点において貯水量は、約2,795万立方メートル、貯水率は、非洪水期の利水容量(5,050万立方メートル)に対して、55.3%となっています。

このような状況を受けて、渡良瀬川では、本日9時より10%の取水制限が開始されるに至ったことから、水資源機構では、本日9時に草木ダム管理所(群馬県みどり市)に「草木ダム管理所渇水対策本部」を設置するとともに、本社(埼玉県さいたま市)に本社危機管理監を本部長とする「独立行政法人水資源機構関東管内渇水対策本部」を設置して渇水への体制を強化しました。

水資源機構では、今後も降雨、河川の流況等の情報をきめ細かに把握するとともに関係機関と緊密に連携して、施設の適切な運用、水源情報の提供等に努めて参ります。

限られた水資源を有効に活用するため、引き続き節水にご理解とご協力をお願いいたします。



平成30年6月29日  
独立行政法人 水資源機構

発表記者クラブ

水資源記者クラブ、竹芝記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 総務部広報課

河合(かわい)・石山(いしやま)

住所: 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

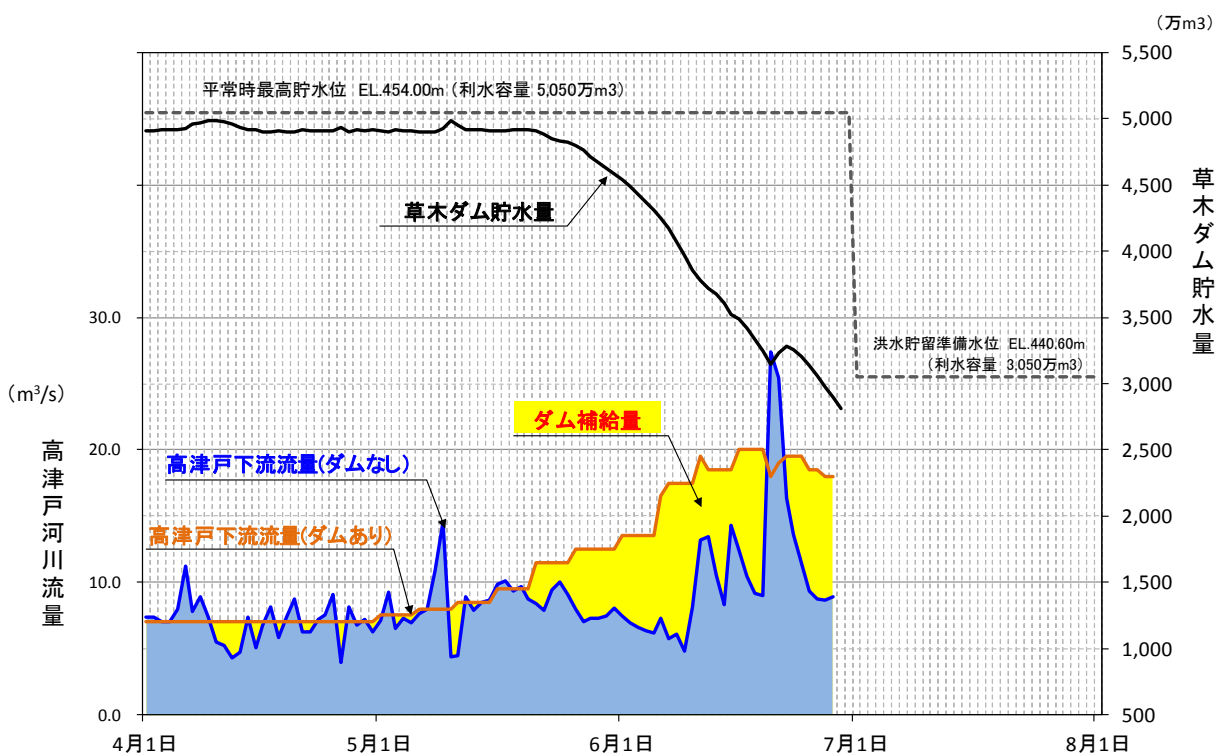
電話: 048(600)6513

【別紙 1】

草木ダムでは、平成30年4月1日以降6月28日までに、下流域で必要な農業用水や都市用水の不足する量について、ダム湖に貯留している水を用いて約2,480万m<sup>3</sup>（東京ドーム21杯分）の補給を行ってきました。その結果、草木ダムの貯水量は6月29日9時において、2,795万m<sup>3</sup>、貯水率は、非洪水期の利水容量（5,050万m<sup>3</sup>）に対して55.3%まで低下しています。

なお、7月1日から洪水期になりますので、利水容量が3,050万m<sup>3</sup>となります。これにより、貯水率も変わります。

$$\left[ \begin{array}{l} \text{非洪水期の貯水率} = \text{当日の貯水量} \div 5,050 \text{万m}^3 \\ \text{洪水期の貯水率} = \text{当日の貯水量} \div 3,050 \text{万m}^3 \end{array} \right]$$



藤岡上流域平均降水量 (mm)						
平成 30 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
月合計	20	5	105	61	114	120
平 年	28	37	56	110	121	173
平年比	71%	14%	188%	55%	94%	69%

※6月の月合計は、6月28日までの値。

※平年は、各月（平成17年～平成29年）の平均値。

【参考】

藤岡上流域平均降水量 (mm)						
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
平成 29 年	24	11	54	80	89	107
平成 8 年	4	24	56	46	101	108

※平成8年は、草木ダム管理開始（昭和52年）以降最大の渇水年。



平成30年4月9日 14時撮影

(貯水位 : EL. 453.74m 貯水量 : 5,007 万 m<sup>3</sup> 貯水率 : 99%) ※データは同日 13 時の値



平成30年6月29日 9時撮影

(貯水位 : EL. 438.58m 貯水量 : 2,795 万 m<sup>3</sup> 貯水率 : 55.3%) ※データは同日 9 時の値